



# Admin UI を使用した プライム ケーブル プロビジョニング の設定

この章では、設定メニューのオプションを選択して実行する プライム ケーブル プロビジョニング 設定タスクを説明します。

- サービス クラスの設定 (1 ページ)
- カスタム プロパティの設定 (4 ページ)
- デフォルトの設定 (4 ページ)
- DHCP 条件の設定 (19 ページ)
- ファイルの管理 (21 ページ)
- プロビジョニング データの発行 (25 ページ)
- プロパティの暗号化 (26 ページ)
- CRS の設定 (27 ページ)

## サービス クラスの設定

プライム ケーブル プロビジョニング Admin UI を使用して、顧客に提供するサービス クラスを設定することができます。たとえば、異なる DOCSIS サービス クラスと DOCSIS オプションを関連付けることができます。プライム ケーブル プロビジョニング Admin UI を使用して、選択されたサービス クラスを追加、変更、または削除します。

サービス クラスを設定するには、**[Configuration (設定)] > [Class of Service (サービス クラス)]** をクリックします。

## サービス クラスの追加

サービス クラスを追加するには。

**ステップ 1** [Manage Class of Service (サービス クラスの管理)] ページから [Class of Service (サービス クラス)] ドロップダウンリストからデバイス タイプを選択します。

**ステップ 2** [Add] をクリックします。

**ステップ 3** 新しいサービス クラスの名前を入力します。

**ステップ 4** サービス クラスを変更する場合は、[Type (タイプ)] ドロップダウン リストからを選択します。たとえば、DOCSIS モデムに Gold-Classic と呼ばれる新しいサービス クラスを作成すると仮定します。サービス クラス名として Gold-Classic を入力し、サービス タイプ ドロップダウン リストから DOCSISModem を選択できます。

**ステップ 5** [Assign Domain (ドメインの割り当て)] をクリックし、属するプロパティにドメインを選択します。[Apply] をクリックして、変更内容を保存します。

(注) ドメイン管理およびドメイン割り当てに関連するオプションは、デフォルトでは入力されていません。詳細については、[ドメインの追加](#)を参照してください。

**ステップ 6** [Add Propert (プロパティの追加)] をクリックし、プロパティを選択して、[プロパティ値 (Property Value)] フィールドに対応する値を入力します。たとえば、プロパティ名 `/cos/docsis/file` を選択する場合、[Property Value (プロパティ値)] フィールドに `Gold-Classic.cm` を入力し、この手順の残り部分を続行します。

(注) DOCSIS モデム サービス クラスを追加するときに、以前追加されたファイル名の値を持つ `/cos/docsis/file` プロパティを指定する必要があります。このファイルは、このサービス クラスを持つ DOCSIS デバイスのプロビジョニング時に使用されます。プライム ケーブル プロビジョニングは、モデムと互換性をもっともある DOCSIS バージョンを有効にするケーブル モデム設定ファイルの自動選択を提供します。この機能を有効にするには、各 DOCSIS レベルの 1 つ、複数の設定ファイルでサービス クラスを設定する必要があります。次のプロパティを使用して、DOCSIS バージョンに固有の設定ファイルを選択できます。

- `/cos/docsis/file/1.0` : DOCSIS 1.0 に固有の設定ファイルを選択します。
- `/cos/docsis/file/1.1` : DOCSIS 1.1 に固有の設定ファイルを選択します。
- `/cos/docsis/file/2.0` : DOCSIS 2.0 に固有の設定ファイルを選択します。
- `/cos/docsis/file/3.0` : DOCSIS 3.0 に固有の設定ファイルを選択します。
- `/cos/docsis/file/3.1` : DOCSIS 3.1 に固有の設定ファイルを選択します。
- `/cos/docsis/file/3.1/ipv4` : IPv4 モードで DOCSIS 3.1 に固有の設定ファイルを選択します。
- `/cos/docsis/file/3.1/ipv6` : IPv6 モードで DOCSIS 3.1 に固有の設定ファイルを選択します。

PacketCable サービス クラスを追加するときに、以前に追加されたファイルの名前になる値を持つ `/cos/packetCableMTA/file` プロパティを指定する必要があります。このファイルは、このサービス クラスを持つ PacketCable デバイスのプロビジョニング時に使用されます。

CableHome WAN-MAN サービス クラスを追加するときに、以前に追加されたファイルの名前になる値を持つ `/cos/cableHomeWanMan/file` プロパティを指定する必要があります。このファイルは、このサービス クラスを持つ CableHome WAN-MAN デバイスのプロビジョニング時に使用されます。

**ステップ 7** サービス クラスにプロパティを追加するには、[Save (保存)] をクリックします。

**ステップ 8** もう一度 **[Submit (送信)]** をクリックしてプロセスを終了します。

サービス クラスを送信後、**[Manage Class of Service (サービス クラスの管理)]** ページを表示して、特定のデバイス タイプに新しく追加されたサービス クラスを示します。

## サービス クラスの変更

さまざまなプロパティを選択し、適切なプロパティ値を割り当てることで、サービス クラスを変更します。最初にサービス クラスを作成するとき、すべての必要なプロパティを選択し、値を割り当て丸必要があります。間違えた場合や、特定のサービス クラスの変更にビジネス要件がある場合、以前の変更を送信する前にプロパティ値を変更したり、プロパティ名：値ペアを一緒に削除したりできます。



(注) サービス クラス オブジェクトへの変更により **Configuration Regeneration Service (CRS)** をトリガし、すべての影響するデバイスの設定を再生成し、DPE に設定を送信します。CRS は、バックグラウンド ジョブとしてこのタスクを実行します。

**[View RDU Details (RDU の詳細の表示)]** ページから **CRS** のステータスを表示できます。

サービス クラスのプロパティを変更するには、特定のデバイス タイプのサービス クラスを選択します。必要な変更を行い、**[Submit (送信)]** をクリックします。

サービス クラスに追加された各プロパティは、**[Submit (送信)]** をクリックすると表示されます。その後、確認ページが表示され、選択したサービス クラスを持つデバイスの設定を再生成します。

## サービス クラスの削除

既存のサービス クラスを削除できますが、その前にデバイスがサービス クラスに関連付けられていないことを確認します。サービス クラスを削除するには、削除する特定のデバイス タイプのサービス クラスを選択し、**[Delete (削除)]** をクリックします。



**ヒント** 削除する必要があるサービス クラスに多数のデバイスが関連付けられている場合、プライム ケーブル プロビジョニング アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) を使用して、これらのデバイスを通して反復するプログラムを書き込み、別のサービス クラスをデバイスに再度割り当てます。



- (注) デフォルトのサービス クラスとして設計されている場合や、デバイスが関連付けられている場合、サービス クラスを削除できません。したがって、**unprovisioned-docsis** サービス クラス オブジェクトを削除することはできません。

## カスタム プロパティ の設定

カスタム プロパティにより、RDU データベースに保存する追加のカスタマイズ可能なデバイス情報を指定することができます。カスタム プロパティを設定するには、**[Configuration (設定)] > [Custom Property (カスタム プロパティ)]** をクリックします。**[Manage Custom Properties (カスタム プロパティの管理)]** ページが表示され、このページを使用してカスタム プロパティを追加または削除します。



- 注意** 現在使用しているカスタム プロパティを削除できますが、それにより予期しない動作が発生する可能性があります。

カスタム プロパティを追加するには、**[Add (追加)]** をクリックします。プロパティの名前とタイプを指定することに加えて、プロパティを暗号化する必要があるか指定できます (**[Encrypt Property (暗号化プロパティ)]** のチェック ボックスをチェック)。これにより、プロパティが **[Property Encryption (プロパティ暗号化)]** ページにも表示されます (**プロパティの暗号化 (26 ページ)** を参照)。

カスタム プロパティを定義した後は、プロパティ階層で使用できます。**Property Hierarchy** を参照してください。

## デフォルト の設定

地域配信ユニット (RDU)、Prime Network Registration 拡張、すべてのサポートされているテクノロジーを含む、システム全体のデフォルト設定にアクセスできます。デフォルト設定を設定または表示するには、**[Configuration (設定)] > [Defaults (デフォルト)]** をクリックします。**[Configure Defaults (デフォルトの設定)]** ページが表示されます。

特定のデフォルト ページにアクセスするには、画面の左側にあるデフォルト リンクから特定のリンクをクリックします。

この章の内容は次のとおりです。

- [CableHome WAN のデフォルト \(5 ページ\)](#)
- [コンピュータのデフォルト \(6 ページ\)](#)
- [DOCSIS のデフォルト \(7 ページ\)](#)
- [Network Registrar Defaults \(9 ページ\)](#)

- [PacketCable デフォルト \(11 ページ\)](#)
- [RDU Defaults \(12 ページ\)](#)
- [システムのデフォルト \(15 ページ\)](#)
- [STB デフォルト \(18 ページ\)](#)
- [c\\_eRouter\\_Defaults.xml](#)
- [RPD Defaults \(19 ページ\)](#)

## CableHome WAN のデフォルト

2つの異なる CableHome WAN デフォルト画面：1個は WAN データ デバイス用、もう1個は WAN-MAN デバイス用です。どちらの場合も、左ペインのリストから目的のデフォルトを選択します。

- CH WAN データ デフォルト リンクを選択すると、[WAN-Data Defaults (WAN データ デフォルト)] ページが表示されます。WAN データ デバイスを設定するには、このページを使用します。
- CH WAN-MAN デフォルト リンクを選択すると、[WAN-Data Defaults (WAN-MAN デフォルト)] ページが表示されます。WAN-MAN デバイス タイプを設定するには、このページを使用します。

各 WAN デフォルト ページには、次の表の説明と同じフィールドが含まれています。

表 1: デフォルトの設定：CH WAN-Data/CH WAN-MAN デフォルト ページ

フィールドまたはボタン	説明
CableHome WAN データ デフォルト/CableHome WAN-MAN デフォルト	
拡張ポイント	WAN デバイスの設定を生成するときに、実行する拡張ポイントを識別します。
中断拡張ポイント	WAN デバイスの中断を実行する拡張ポイントを識別します。
サービス レベル選択拡張ポイント	デバイスに必要な DHCP 条件とサービス クラスを判断するために使用する拡張機能を特定します。
デフォルトのサービス クラス	WAN データの現在のデフォルト サービス クラスを識別します。新規の認識されていない WAN デバイスは、このサービス クラスに割り当てられます。ドロップダウン リストを使用して、新しいデフォルト値を選択します。

フィールドまたはボタン	説明
デフォルトの DHCP 条件	特定のデバイス テクノロジーの現在のデフォルト DHCP 条件を特定します。新規の認識されていない WAN デバイスには、このデフォルト DHCP 条件が割り当てられます。ドロップダウン リストを使用して、新しいデフォルト値を選択します。
自動 FQDN 生成	<p>デバイスのホストとドメイン名を自動的に生成します。2つの選択可能なオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有効：FQDN の自動生成が有効になっています。</li> <li>無効：FQDN の自動生成が無効になっています。</li> </ul> <p>(注) 詳細については、<a href="#">自動 FQDN 生成</a> を参照してください。</p>
CableLabs 設定ファイル名スクリプト	<p>動的 TFTP ファイル名を生成するために使用する Groovy スクリプトを識別します。</p> <p>(注) このフィールドは、CableHome WAN MAN デフォルト リンクを選択する場合にのみ表示されます。</p>

## コンピュータのデフォルト

[Computer Defaults (コンピュータ デフォルト)] リンクを選択するとき、プライム ケーブル プロビジョニングでサポートされているコンピュータに現在適用されているデフォルト値のリストが表示されます。このページに表示されるフィールドの説明については、『[表 1: デフォルトの設定 : CH WAN-Data/CH WAN-MAN デフォルト ページ \(5 ページ\)](#)』を参照してください。



(注) デフォルト サービス クラスまたはデフォルト DHCP 条件を変更することで、再生成が発生します。このページに加えられたその他の変更は、既存のデバイスに影響しません。

## DOCSIS のデフォルト

[DOCSIS Defaults (DOCSIS デフォルト) ]リンクを選択するとき、プライム ケーブル プロビジョニングでサポートされているケーブルモデムに現在適用されているデフォルト値のリストが表示されます。このページのフィールドは、[表 1: デフォルトの設定 : CH WAN-Data/CH WAN-MAN デフォルト ページ \(5 ページ\)](#) で説明されているフィールドと同じです。これらは、このページに表示される追加のフィールドであり、次の表で説明されています。

表 2: デフォルトの設定 : **DOCSIS** デフォルト ページ

フィールドまたはボタン	説明
TFTP モデム アドレス オプション	TFTP モデム アドレス オプションが有効になっているか特定します。
TFTP タイムスタンプ オプション	TFTP サーバがタイムスタンプを発行するか特定します。
(注) このページで TFTP オプションの一方または両方を有効にすると、DOCSIS ケーブル モデムに送信される前に、TFTP ファイルに適切な TFTP 情報が含まれます。	
CMTS 共有秘密鍵	プライム ケーブル プロビジョニングを設定ファイルの CMTS MIC の計算に使用する文字列を識別します。CMTS では、認証のため CMTS にケーブルモデムが送信する設定ファイルの認証にこれを使用します。
CMTS デフォルト DOCSIS バージョン	すべての CMTS で使用されるデフォルトの DOCSIS バージョンを指定します。このフィールドに DOCSIS バージョンを入力しない場合、バージョン 1.0 がデフォルトになります。
CMTS バージョン マッピング ファイルへのリレー エージェント IP アドレス	CMTS で使用されているマッピングファイルを識別します。このファイルは、CMTS が使用する DOCSIS バージョンを指定します。
拡張 CMTS MIC オプション	拡張 CMTS MIC (EMIC) オプションが有効になっているか特定します。  (注) このフィールドが有効になっている場合のみ、このセクションで後続のフィールドが表示されます。

フィールドまたはボタン	説明
拡張 CMTS MIC HMAC タイプ	EMIC 計算のためデフォルトのハッシュ ベース メッセージ認証コード (HMAC) タイプを識別します。  次の HMAC タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• MD5</li> <li>• MMH16</li> </ul> (注) デフォルトでは、MMH16 は EMIC 計算に使用されます。
拡張 CMTS MIC ダイジェスト明示オプション	拡張 CMTS MIC ダイジェスト明示ダイジェスト オプションが有効になっているか特定します。  デフォルトでは、拡張 CMTS MIC 明示ダイジェストは EMIC 計算に使用されます。
拡張 CMTS MIC 共有秘密鍵	プライム ケーブル プロビジョニング を設定ファイルの拡張 CMTS MIC の計算に使用する文字列を識別します。CMTS では、認証のため CMTS にケーブル モデム が送信する設定ファイルの認証にこれを使用します。
デュアル スタック モード	すべての DOCSIS デバイスにデュアル スタック モードを有効または無効にします。
デュアル スタック 中断設定モード	デバイス 中断に使用される IP アドレスの設定を特定します。このプロパティは、デュアル スタック モードが有効になっている場合のみ該当します。デフォルトで、デュアル スタック デバイス 中断設定モードは <i>[Dual-stack (デュアル スタック)]</i> に設定されています。  次のデバイス 中断設定モードのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• IPv4 : IPv4 アドレスを使用してデバイスをリセットします。</li> <li>• IPv6 : IPv6 アドレスを使用してデバイスをリセットします。</li> <li>• デュアル スタック : IPv4 および IPv6 アドレスの両方を使用してデバイスをリセットします。</li> </ul>
IP 優先順位モードの制御	RDU で設定可能な IP 優先順位値を識別します。この値は IP アドレス (IPv4 または IPv6) を制御します。これは eUE により取得され、プロビジョニング フローに使用されます。詳細については、 <a href="#">IP 設定オプションの設定</a> を参照してください。



(注) デフォルト サービス クラスまたはデフォルト DHCP 条件を変更することで、再生成が発生します。TFTP オプションへの変更は、次の TFTP 転送から開始できます。



## Network Registrar Defaults

プライムケーブルプロビジョニングはPrime Network Registrar (NR) 拡張ポイントを提供し、これによりプライムケーブルプロビジョニングが受信 DHCP パケットから情報をプルしてデバイスのテクノロジーを検出します。拡張ポイントでは、プライム ケーブル プロビジョニングが DPE に保存されている設定に対応するオプションで、デバイス DHCP 要求に応答できません。

[RPD Defaults (RPD デフォルト)] リンクを選択するとき、Prime Network Registrar 拡張に現在適用されているデフォルト値のリストが表示されます。次の表では、このページに表示されるフィールドを説明します。

表 3: デフォルトの設定 : *Network Registrar* デフォルト ページ

フィールドまたはボタン	説明
NR 拡張ポイントの設定 (Cisco BAC 4.0 以降)	
DHCPv4 要求ディクショナリに必要な属性	Network Registrar DHCPv4 要求ディクショナリが Network Registrar 拡張に含める必要がある属性のカンマ区切りリストを特定し、RDU に要求を送信してデバイス設定を生成します。  このフィールドのデフォルト値は、リレーエージェント リモート ID オプションです。このフィールドに <b>relay-agent-remote-id</b> 値を設定しない場合、Network Registrar 拡張機能は設定の生成要求のトリガからデバイスを拒否します。
バイトとして DHCPv4 要求ディクショナリからの属性	RDU に要求を送信してデバイス設定を生成するときに、Network Registrar DHCPv4 要求ディクショナリがバイトとしてプルする属性のカンマ区切りリストを特定します。
文字列として DHCPv4 要求ディクショナリからの属性	RDU に要求を送信してデバイス設定を生成するときに、Network Registrar DHCPv4 要求ディクショナリが文字列としてプルする属性のカンマ区切りリストを特定します。
DHCPv6 要求ディクショナリに必要な属性	Network Registrar DHCPv6 要求ディクショナリが Network Registrar 拡張に含める必要がある属性のカンマ区切りリストを特定し、RDU に要求を送信してデバイス設定を生成します。  このフィールドのデフォルト値は <b>[none (なし)]</b> です。

フィールドまたはボタン	説明
DHCPv6 要求ディクショナリに必要なオプション	Network Registrar DHCPv6 要求ディクショナリが Network Registrar 拡張に含める必要がある DHCP オプションのカンマ区切りリストを指定し、RDUに要求を送信してデバイス設定を生成します。
バイトとして DHCPv6 要求ディクショナリからの属性	RDUに要求を送信してデバイス設定を生成するときに、Network Registrar DHCPv6 要求ディクショナリがバイトとしてプルする属性のカンマ区切りリストを特定します。
バイトとして DHCPv6 要求ディクショナリからのオプション	RDUに要求を送信してデバイス設定を生成するときに、Network Registrar DHCPv6 要求ディクショナリがバイトとしてプルする DHCP オプションのカンマ区切りリストを指定します。
DHCPv6 リレー ディクショナリに必要な属性	Network Registrar DHCPv6 リレー ディクショナリが Network Registrar 拡張に含める必要がある属性のカンマ区切りリストを特定し、RDUに要求を送信してデバイス設定を生成します。  このフィールドのデフォルト値は、 <b>peer-address</b> です。
DHCPv6 リレー ディクショナリに必要なオプション	Network Registrar DHCPv6 リレー ディクショナリが Network Registrar 拡張に含める必要がある DHCP オプションのカンマ区切りリストを特定し、RDUに要求を送信してデバイス設定を生成します。
バイトとして DHCPv6 リレー ディクショナリからの属性	Network Registrar DHCPv6 リレー ディクショナリが Network Registrar 拡張にバイトとしてプルする属性のカンマ区切りリストを特定し、RDUに要求を送信してデバイス設定を生成します。
バイトとして DHCPv6 リレー ディクショナリからのオプション	Network Registrar DHCPv6 リレー ディクショナリが Network Registrar 拡張にバイトとしてプルする DHCP オプションのカンマ区切りリストを特定し、RDUに要求を送信してデバイス設定を生成します。
NR 拡張ポイント環境の設定	

フィールドまたはボタン	説明
環境ディクショナリからの属性	RDUに要求を送信してデバイス設定を生成するときに、Network Registrar 環境ディクショナリが文字列としてプルする属性のカンマ区切りリストを特定します。



(注) このページへの変更は、Prime Network Registrar 拡張がリロードされるまで有効になりません。

## PacketCable デフォルト

[PacketCable Defaults (PacketCable デフォルト)] ページでは、PacketCable 音声テクノロジーをサポートするために必要なデフォルトを特定します。PacketCable のデフォルトのリンクを選択すると、現在 PacketCable デバイスに適用されているデフォルト値のリストが表示されます。このページのフィールドは、[表 1: デフォルトの設定: CH WAN-Data/CH WAN-MAN デフォルト ページ \(5 ページ\)](#) で説明されているフィールドと同じです。これらは、このページに表示される追加のフィールドであり、次の表で説明されています。

表 4: デフォルト: PacketCable のデフォルト ページ設定

フィールドまたはボタン	説明
SNMP タイムアウト	秒単位で SNMP 設定タイムアウトを特定します。
MTA プロビジョニング通知	MTA イベントが発生していることを通知します。選択された選択肢に基づいて、MTA がプロビジョニング完了情報を送信する際にイベントが発生します。利用可能なオプションは下記の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• On Failure</li> <li>• On Success</li> <li>• プロビジョニング時</li> <li>• Always</li> <li>• Never</li> </ul>
デュアル スタック モード	すべての PacketCable デバイスにデュアル スタック モードを有効または無効にします。

フィールドまたはボタン	説明
デュアル スタック 中断設定モード	<p>デバイス 中断に使用される IP アドレスの設定を特定します。このプロパティは、デュアル スタック モードが有効になっている場合のみ該当します。デフォルトで、デュアル スタック デバイス 中断設定モードは <i>[Dual-stack (デュアル スタック)]</i> に設定されています。</p> <p>次のデバイス 中断設定モードのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IPv4 : IPv4 アドレスを使用してデバイスをリセットします。</li> <li>• IPv6 : IPv6 アドレスを使用してデバイスをリセットします。</li> <li>• デュアルスタック : IPv4 および IPv6 アドレスの両方を使用してデバイスをリセットします。</li> </ul>

## RDU Defaults

RDU のデフォルトのリンクを選択すると、RDU が設定されているデフォルトの設定が表示されます。この設定は、Prime Network Registrar と通信するための RDU 設定に応じて変更可能です。詳細については、『[Cisco Prime Network Registrar End-User Guides](#)』を参照してください。

次の表で、RDU デフォルト ページに表示されるフィールドを説明します。

表 5: デフォルトの設定 : RDU デフォルト ページ

フィールドまたはボタン	説明
設定拡張ポイント	その他のテクノロジー拡張ポイントが実行される前に実行される一般的な拡張ポイントを特定します。
デバイス検出拡張ポイント	デバイス DHCP 検出デバイス要求から抽出された情報に基づいて、デバイス タイプ (例 : DOCSIS またはコンピュータ) を決定するために使用される拡張ポイントを識別します。
パブリッシング拡張ポイント	RDU パブリッシングプラグインに使用する拡張ポイントを識別します。この情報は、もう 1 つのデータベースに RDU データを公開する必要がある場合に役立ちます。

フィールドまたはボタン	説明
拡張ポイント JAR ファイル検索の順序	上記の 4 つのフィールドに一覧になっている JAR ファイルで、クラスを検索する順序を指定します。
再生成障害のしきい値のパーセンテージ	障害が発生したデバイスの許容可能な最大割合を識別します。許容値は 0.0 ~ 100.0% です。デフォルトでは、この値は 0.0% に設定されています。
障害のしきい値を超える時点で一時停止	再生成障害のしきい値のパーセンテージが超過するとき、設定再生成サービス (CRS) が一時停止しているか特定します。次の 2 つのオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効化：障害しきい値のパーセンテージを超過すると、CRS を自動的に一時停止します。</li> <li>無効化：CRS はデバイスの残りの設定を引き続き再生成します。</li> </ul> デフォルトでは、障害のしきい値を超える時点での一時停止が有効になります。
スクリプトの再コンパイル	デフォルトでは、スクリプトコンパイルモードが有効になっていると、ファイル追加中にスクリプトがコンパイルしキャッシュされません。
ユーザー 1 人あたりのセッション数	ユーザーに許可される最大セッション数を指定します。1 ~ 100 の任意の値を指定することができます。このプロパティのデフォルト値は 100 です。このプロパティの値がユーザーに割り当てられていない場合、RDU デフォルトで使用可能な値と見なされます。
RADIUS 認証の有効化	使用される認証モードを識別します。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効化：Radius サーバを使用してユーザーを認証します。</li> <li>無効化：ローカル RDU データベースにユーザーを認証します。</li> </ul>

## radius 認証の設定詳細

次の表に、Radius 認証の設定に必要なフィールドを示します。

表 6: デフォルトの設定 : RDU のデフォルト ページ : サーバ認証モード プロパティの詳細 : RADIUS モード

フィールドまたはボタン	説明
プライマリ ホスト	RADIUS サーバのプライマリ IP アドレスを特定します。
プライマリ SharedSecret	RADIUS サーバユーザーを認証する際に使用される共有秘密鍵を特定します。
プライマリ ポート	Radius サーバのプライマリ認証ポート番号を特定します。デフォルトのポート番号は 1812 です。
セカンダリ ホスト :	オプションで Radius サーバのセカンダリ IP アドレスを特定します。
セカンダリ SharedSecret	オプションで RADIUS サーバユーザーを認証する際に使用されるセカンダリ共有秘密鍵を特定します。
セカンダリ ポート	オプションで Radius サーバのセカンダリ認証ポート番号を特定します。
タイムアウト	RDU サーバに接続する際に RDU が応答を待機する最大時間長を指定します。値はミリ秒単位で指定され、デフォルト値は 1000 ミリ秒です。値は 1000 ~ 5000 ミリ秒で指定できます。
リトライ	RDU が Radius サーバへの接続を試行する最大回数を指定します。デフォルト値は 1 で、1-5 に変更できます。



- (注) Radius のタイムアウトが 10000 ミリ秒を超える場合、プライム ケーブル プロビジョニング 認証は失敗します。Radius のタイムアウトと再試行回数は、10000 ミリ秒を超えないように設定する必要があります。

## システムのデフォルト

システムデフォルトリンクを選択すると、[System Defaults (システム デフォルト)] ページが表示されます。次の表で、このページに表示されるフィールドを説明します。



(注) ユーザーはプライム ケーブル プロビジョニング API を使用してデフォルト値を設定できません。

表 7: システムのデフォルト ページを設定します

フィールドまたはボタン	説明
システムのデフォルト	
SNMP Write Community String	SNMP 情報を必要とするデバイスのデフォルト書き込みコミュニティ文字列を識別します。デフォルトの書き込みコミュニティ文字列は <b>private</b> です。
SNMP Read Community String	SNMP MIB を読み取りまたはアクセス可能なデバイスのデフォルト読み取りコミュニティ文字列を特定します。デフォルトのコミュニティ文字列は <b>public</b> です。

フィールドまたはボタン	説明
デバイス検出のデフォルト デバイス タイプ	<p>RDUに登録されていないデバイスのデフォルトのデバイス タイプを識別します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DOCSIS</li> <li>• コンピュータ</li> <li>• PacketCableMTA</li> <li>• STB</li> <li>• CableHomeWanMan</li> <li>• CableHomeWanData</li> <li>• eRouter</li> <li>• RPD</li> </ul> <p>(注) デバイス検出拡張機能によりデバイス タイプを特定できない場合、「デフォルトタイプ」(たとえば、コンピュータ)は、デバイス タイプを指定します。[None (なし)]にデフォルトのデバイス タイプを設定すると、デバイスのレコードは RDU に追加されません。</p>
最大診断デバイス数	任意の時点で、トラブルシューティング可能なMACアドレス(デバイス)の最大数を示します。
MIB の一覧	RDU を再起動する必要がない RDU で使用されている MIB のリストを識別します。
補足 MIB リスト	RDU で使用されている MIB の拡張リストを識別します。
除外 MIB トークン	MIB で再定義不可能なこれらのキーワードまたはトークンを定義します。
除外補足 MIB トークン	MIB で再定義不可能であり、除外 MIB トークンリストに表示されないこれらのキーワードまたはトークンを定義します。
混合モード ポリシー設定	



フィールドまたはボタン	説明
CableHome WanData 混合モード	混合モードの CableHome WAN データのデバイスを有効または無効にします。
CableHome WanMan 混合モード	混合モードで CableHome WAN-MAN デバイスを有効または無効にします。
コンピュータ混合モード	混合モードでコンピュータを有効または無効にします。
PacketCable 混合モード	混合モードで PacketCable デバイスを有効または無効にします。
STB 混合モード	混合モードで STB を有効または無効にします。
CableHome WanData 混合モード DHCP 条件	混合モードで WAN データ デバイスのプロビジョニングに使用される DHCP 条件を特定します。
CableHome WanMan 混合モード DHCP 条件	混合モードで WAN-MAN デバイスのプロビジョニングに使用される DHCP 条件を特定します。
コンピュータ混合 DHCP 条件	混合モードでコンピュータをプロビジョニングするための DHCP 条件を特定します。
Packetcable 混合 DHCP 条件	混合モードで PacketCable デバイスのプロビジョニングに使用される DHCP 条件を特定します。
STB 混合 DHCP 条件	混合モードで STB をプロビジョニングするための DHCP 条件を特定します。
CableHome WanData 混合サービス クラス	混合モードで WAN データ デバイスのプロビジョニングに使用されるサービス クラスを特定します。
CableHome WanMan 混合サービス クラス	混合モードで WAN-MAN デバイスのプロビジョニングに使用されるサービス クラスを特定します。
コンピュータ混合サービス クラス	混合モードでコンピュータのプロビジョニングに使用されるサービス クラスを特定します。
Packetcable 混合サービス クラス	混合モードで PacketCable デバイスのプロビジョニングに使用されるサービス クラスを特定します。

フィールドまたはボタン	説明
STB 混合サービス クラス	混合モードで STB のプロビジョニングに使用されるサービス クラスを特定します。
CableLabs 設定ファイル名スクリプト	動的 TFTP ファイル名を生成するために使用する Groovy スクリプトを識別します。
eRouter 混合モード	混合モードで eRouter を有効または無効にします。
eRouter 混合モード DHCP 条件	混合モードで eRouter をプロビジョニングするための DHCP 条件を特定します。
eRouter 混合サービス クラス	混合モードで eRouter のプロビジョニングに使用されるサービス クラスを特定します。

## STB デフォルト

STB のデフォルト ページでは、CableLabs OpenCable Application Platform に準拠する STB をサポートするために必要な、これらのデフォルトを特定します。このページには、[表 1: デフォルトの設定 : CH WAN-Data/CH WAN-MAN デフォルト ページ \(5 ページ\)](#) で説明されているのと同じフィールドを含みます。これらは、このページに表示される追加のフィールドであり、次の表で説明されています。

表 8: デフォルトの設定 : STB デフォルト ページ

フィールドまたはボタン	説明
デュアルスタック モード	すべての STB デバイスにデュアルスタック モードを有効または無効にします。



(注) 後続のデバイス設定には実行した変更が含まれます。ただし、すべての既存の設定は変更されません。既存の設定に変更するには、API を使用して設定を再生成する必要があります。

## eRouter Defaults

表 9: デフォルトの設定 : eRouter デフォルト ページ

フィールドまたはボタン	説明
デュアルスタック モード : 有効/無効	デフォルトでは、無効に設定されています。

フィールドまたはボタン	説明
デュアルスタック中断優先モード：IPv4/IPv6/デュアルスタック	<p>デバイス中断に使用される IP アドレスの設定を特定します。このプロパティは、デュアルスタックモードが DOCSIS デフォルトおよび eRouter デフォルトで有効になっている場合のみ該当します。デフォルトで、デュアルスタック デバイス中断設定モードは [Dual-stack (デュアルスタック)] に設定されています。</p> <p>次のデバイス中断設定モードのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IPv4：デバイス背後で IPv4 アドレスを使用してデバイスをリセットします。</li> <li>• IPv6：デバイス背後で IPv6 アドレスを使用してデバイスをリセットします。</li> <li>• デュアルスタック：デバイス背後で IPv4 および IPv6 アドレスの両方を使用してデバイスをリセットします。</li> </ul>

## RPD Defaults

[RPD Defaults (RPD デフォルト)] リンクを選択するとき、プライムケーブルプロビジョニングでサポートされている RPD に現在適用されているデフォルト値のリストが表示されます。このページに表示されるフィールドの説明については、『[表 1：デフォルトの設定：CH WAN-Data/CH WAN-MAN デフォルト ページ \(5 ページ\)](#)』を参照してください。



(注) デフォルト サービス クラスまたはデフォルト DHCP 条件を変更することで、再生成が発生します。このページに加えられたその他の変更は、既存のデバイスに影響しません。

## DHCP 条件の設定

プライムケーブルプロビジョニングでは、プライムネットワークレジスタの範囲を選択するときに、DHCP 条件はデバイスの特定の条件を説明します。たとえば、**provisioned-docsis** と呼ばれる DHCP 条件には、**tagProvisioned** と呼ばれる包含的な選択項目タグがあります。DHCP の条件は、DOCSIS モデムに関連付けられています。このモデムがプライムネットワークレジスタから IP アドレスを要求するとき、プライムネットワークレジスタは範囲選択タグ **tagProvisioned** に関連付けられている範囲を検索します。

DHCP 条件のページにアクセスするには、[**Configuration**] > [**DHCP Criteria**] を選択します。[**Manage DHCP Criteria**] ページが表示されたら、追加したテクノロジー DHCP 条件を特定する DHCP 条件の一覧を表示します。

## DHCP 条件の追加

DHCP の条件を追加するには：

**ステップ 1** [Manage DHCP Criteria] ページで、**[追加]** をクリックします。

**ステップ 2** 作成する DHCP 条件の名前を入力します。

**ステップ 3** DHCP 条件クライアントクラス名を入力します。

**ステップ 4** 包括および除外選択タグを入力します。

(注) 新しい DHCP 条件を作成する場合、入力するクライアントクラスと包括および除外選択タグ名は、Network Registrar 内から正確な名前である必要があります。クライアントクラスと選択タグの詳細については、/docs ディレクトリの『[Cisco Prime Network Registrar End-User Guides](#)』および *CLIFrame.html* を参照してください。新しい DHCP 条件を作成する場合、クライアントクラス、包括および除外選択タグ名のどちらかを指定する必要があります。

**[Assign Domain]** をクリックし、属するプロパティにドメインを選択します。**[Apply]** をクリックして、変更内容を保存します。

(注) ドメイン管理およびドメイン割り当てに関連するオプションは、デフォルトでは入力されていません。詳細については、[ドメインの追加](#)を参照してください。

**ステップ 5** 選択した DHCP 条件に新しいプロパティを追加するには、**[Add Property]** をクリックします。ドロップダウンリストからプロパティを選択し、値を入力します。**[Save]** をクリックします。

**ステップ 6** **[Add]** をクリックします。

**ステップ 7** **[Submit]** をクリックします。

RDU データベースに DHCP 条件が正常に追加されると、**[Manage DHCP Criteria]** ページに表示されます。

## DHCP 条件の変更



(注) DHCP の条件を変更すると、後続のデバイス設定には実行した変更が含まれます。再起動するまで、ネットワーク上のデバイスに新しい設定は取得されず、すべての既存の設定を再生成します。

既存の DHCP 条件を変更するには、変更する DHCP 条件リンクをクリックします。クライアントクラス、包括および除外選択タグ、およびプロパティ値の設定に必要な変更を行います。**[Submit]** をクリックします。

## DHCP 条件の削除

管理者アプリケーションを使用して DHCP 条件を削除しても、DHCP サーバから実際の DHCP サーバ設定は削除されません。DHCP サーバ設定を手動で削除する必要があります。

既存の条件を削除するには、削除する DHCP 条件を選択し、**[Delete]** をクリックします。



- (注) 条件に関連付けられているデバイスがなく、デフォルトの DHCP 基準として指定されていない場合にのみ DHCP 条件を削除できます。DHCP の条件に関連付けられたデバイスがある場合、条件を削除する前にさまざまな DHCP 条件に関連付ける必要があります。

## ファイルの管理

プライム ケーブル プロビジョニング Admin UI を使用して、DOCSIS、PacketCable MTAs、WAN-MAN ファイルの動的生成、またはデバイスのソフトウェア イメージに、TFTP サーバ ファイルまたはテンプレート ファイルを管理できます。このページを使用して、次を含むファイル タイプを追加、削除、置換、またはエクスポートします。

- **Template files** : 特定のサービス クラスで使用され、動的ファイル生成を提供するとき、DOCSIS、PacketCable、または CableHome オプションと値を含むテキスト ファイルです。



- (注) テンプレート ファイルはテキスト エディタで作成可能ですが、*tmpl* ファイルタイプが必須です。テンプレート情報の詳細については、[テンプレート](#) を参照してください。

- **Static configuration files** : これらのファイルは、デバイスの設定ファイルとして使用されます。たとえば、*gold.cm* と呼ばれるスタティック設定ファイルは、ゴールド DOCSIS サービス クラスを識別します。プライム ケーブル プロビジョニング その他のバイナリ ファイルと同様に、このファイルタイプを扱います。
- **Firmware images** : デバイス ファームウェアのイメージであり、デバイスにダウンロードし、機能をアップグレードできます。プライム ケーブル プロビジョニング は、他のバイナリ ファイルと同様にこのファイルタイプを扱います。これらのファームウェア イメージは、Cisco デバイスの IOS イメージを含めることができます。

次の表で、**[View Files]** ページに表示されるフィールドを説明します。

表 10: View Files Page

フィールドまたはボタン	説明
検索タイプ	<p>プライム ケーブル プロビジョニング Admin UI を使用して、ファイルに実行可能な検索タイプを特定します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Search by File Name : 指定したファイル名のパターンを使用してファイルを検索します。</li> <li>• Search by File Type : 指定したファイルタイプを使用してファイルを検索します。オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Firmware File : ファームウェアイメージファイルを指定します。</li> <li>• CableLabs Configuration File : CableLabs のスタティック設定ファイルを指定します。</li> <li>• CableLabs Configuration Script : CableLabs の設定スクリプトファイルを指定します。</li> <li>• CableLabs Configuration Template : CableLabs の設定テンプレートファイルを指定します。</li> <li>• CableLabs Configuration Filename Script : CableLabs のスクリプトで設定ファイル名を指定します。</li> <li>• Generic File : 一般的なファイルを指定します。</li> <li>• JAR File : JAR ファイルを指定します。</li> <li>• MIB File : MIB ファイルを指定します。</li> </ul> </li> </ul>

フィールドまたはボタン	説明
検索基準	ファイル名またはファイル タイプを識別します。ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用して、部分的なファイル名を検索します。たとえば、*.cm を入力して、*.cm 拡張子で終わるすべてのファイルを一覧表示できます。無効なワイルドカードの例は bronze* です。
ファイル	検索条件に一致するファイルの一覧が表示されます。  (注) 項目を削除する前に、このリストで選択した項目の左にあるチェックボックスをオンにする必要があります。
View	選択したファイルの詳細を表示します。
ファイル タイプ	ファイルのタイプを識別します。
Export	クライアントのコンピュータに選択したファイルをエクスポートします。

## ファイルの追加

既存のファイルを追加するには。

**ステップ 1** [View Files] ページから **[Add]** をクリックします。

**ステップ 2** ドロップダウン リストから、**[File Type]** を選択します。

**ステップ 3** 送信元ファイルへのパスを入力します。

送信元ファイルの正確な名前がわからない場合は、**[Browse]** をクリックして目的のディレクトリに移動し、ファイルを選択します。

**ステップ 4** ファイルの名前を入力します。

CableLabs 設定ファイルまたはファームウェア ファイルを追加する場合は、これらの手順を実行するか、手順 6 に進む必要があります。

- a) CableLabs 設定ファイルまたはファームウェア ファイルを追加するときに、DPE に RDU に追加するファイルを提供できます。これを行うには、[Is Deliverable] フィールドに対応する **[Enabled]** ラジオ ボタンをクリックします。

中にプライムケーブルプロビジョニングセットの各ファイルの成果物のステータスタイプ、CableLabs 設定ファイルまたはファームウェア ファイルのみのデフォルト設定を変更することができます。次のリストでは、各ファイルタイプのデフォルトの提供ステータスを示します。

- ファームウェア ファイル : Enabled
- CableLabs 設定ファイル : Disabled
- CableLabs 設定テンプレート : Disabled
- 一般的なファイル : Disabled
- JAR ファイル : Disabled
- MIB ファイル : Disabled
- CableLabs 設定スクリプト : Disabled
- CableLabs 設定ファイル名スクリプト : Disabled

b) ファームウェアファイルの場合、さらにファイルバージョンとそのバージョンの適切な説明を入力します。

**ステップ 5** **[Assign Domain]** をクリックし、ファイルが所属する必要があるドメインを選択します。[Apply] をクリックして、変更内容を保存します。

**ステップ 6** **[Submit]** をクリックします。`

(注) ファイルサイズは 4 MB までサポートされます。追加するファイルのサイズが 4 MB 以上の場合は、エラーが表示されます。

ファイルが追加されたことを示す **[View Files]** ページが表示されます。

## ファイルの削除

既存ファイルを削除するには、検索オプションを使用して削除するファイルを探します。適切なファイルを選択して、**[Delete]** をクリックします。



**注意** サービス クラスに直接リンクされていないが、サービス クラスにリンクされている別のテンプレート/groovy ファイルで参照されているテンプレート ファイルを削除すると、設定の再生成サービスが失敗します。



(注) 関連付けられたサービスクラスを持つファイルは削除することはできません。続行する前に、サービス クラスの関連付けを削除する必要があります。詳細については、[サービス クラスの設定 \(1 ページ\)](#) を参照してください。



## プロビジョニング データの発行

プライムケーブルプロビジョニングリアルタイムで外部のデータストアを追跡するプロビジョニングデータを発行する機能があります。これを行うには、目的のデータストアにデータを書き込むようにプラグインの発行を開発する必要があります。[Manage Publishing] ページでは、プラグイン名、現在のステータス（有効/無効）、スイッチなどの情報を識別し、有効または無効にします。

実装に必要なだけのプラグインを有効にできますが、プラグインの発行の使用によりシステムパフォーマンスが低下する可能性があることに注意してください。



- (注) プライム ケーブル プロビジョニング 発行プラグインは付属していません。独自のプラグインを作成し、JAR ファイルと同じ方法でプライム ケーブル プロビジョニング にロードする必要があります（[ファイルの管理 \(21 ページ\)](#) を参照）。次に、[Manage Publishing] ページからプラグインを管理します。

## データストアの変更の発行

プラグイン発行を有効化または無効化するには：

**ステップ 1** [Primary Navigation] バーの [Configuration] > [Publishing] を選択します。

**ステップ 2** 必要なプラグインを有効または無効にするには、適切なステータス インジケータをクリックします。

ステータスをクリックすると、2つの状態をトグルすることに注意してください。

## 発行プラグイン設定の変更

これらの設定は、個別データストアに RDU のプラグイン設定を保管する際に、プラグイン作成者にとって便利な方法です。発行プラグイン設定を変更するには：

**ステップ 1** [Primary Navigation] バーの [Configuration] > [Publishing] を選択します。

**ステップ 2** 変更するプラグインに対応するリンクをクリックします。[Modify Publishing Plug-Ins] ページが表示されず。

次の表では、[Modify Publishing Plug-Ins] ページに表示されるフィールドを識別します。

表 11 : [Modify Publishing Plug-Ins] ページ

フィールド	説明
プラグイン	発行プラグイン名を識別します。
Server	データストアが存在するサーバ名を識別します。
ポート	データストアが存在するポート番号を識別します。
IP アドレス	データストアが存在するサーバの IP アドレスを特定します。このアドレスは通常、サーバ名に使用されていないときに指定されます。
User	保存されているデータへのアクセス権を持つユーザーを識別します。
[Password]	保存されているデータにアクセスできるユーザーのパスワードを識別します。
Confirm Password	上記で入力したパスワードを確認します。

**ステップ 3** [Server]、[Port]、[IP Address]、[User]、[Password]、[Confirm Password] フィールドに必要な値を入力します。これらはすべて必須フィールドであり、続行する前にこの情報を指定する必要があります。

**ステップ 4** 選択されたプラグインに変更を行う場合は、[Submit] をクリックします。

## プロパティの暗号化

デフォルトでは、CoS、DHCP 条件、デバイスなどさまざまなエンティティレベルで、カスタムプロパティとデバイスプロパティに割り当てられた値は、文字列、整数、RDU のブール値などプレーンオブジェクトとして保存されています。データは繊細と考えられるため、プライムケーブルプロビジョニングではこれらのプロパティを暗号化することができます。これらのプロパティ値が復号化され、API コールを使用して取得する際に実際のプレーンオブジェクトとして返されます。

プロパティの暗号化を有効にするには：

**ステップ 1** [Primary Navigation] バーで [Configuration] > [Property Encryption] を選択します。

[Property Encryption] ページには、暗号化されたカスタムプロパティを含む暗号化されたすべてのプロパティを一覧表示します。カスタムプロパティの暗号化の詳細については、[カスタムプロパティの設定 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 2** [Property Encryption] ページから暗号化用に新しいプロパティを追加することもできます。[Add Property] をクリックします。

**ステップ 3** 暗号化するプロパティを選択し、**[Save]** をクリックします。

デバイス プロパティは、**[Property Encryption]** ページ経由でのみ暗号化のため追加可能です。

(注) 暗号化を無効にするには、**[Property Encryption]** リストからプロパティを選択し、**[Delete]** をクリックします。

## CRS の設定

プライム ケーブル プロビジョニング Admin UI を使用して、CRS 要求をより効率的に管理することができます。プライム ケーブル プロビジョニング Admin UI を使用して、CRS を有効化、無効化、一時停止、再開します。CRS によってキューされた要求を表示、フィルタ、削除できます。これらのタスクを管理するには、適切な権限が付与される必要があります。これらの管理機能もは RDU API 経由で利用できます。

**[Manage Configuration Regeneration Service (設定の再生成サービスの管理)]** ページは **[Configuration (設定)]** メニュー (**[Configuration (設定)]** > **[CRS Management (CRS 管理)]**) からキューの CRS 要求を管理する詳細とオプションを表示します。

適切なステータス インジケータをクリックして、CRS を有効化、無効化、一時停止、再開します。ステータスをクリックすると、有効化と無効化、実行中と一時停止の状態が切り替わります。CRS 状態のいずれかを変更後、RDU を再起動する必要はありません。デフォルトでは、CRS が有効になっています。

- CRS が *[Enabled (有効)]* 状態になっているとき、CRS の一時停止および再開、キューからの CRS の表示、フィルタ、削除、CRS 統計情報のモニタなど、その他の CRS 要求管理機能を実行できます。
- CRS が *[Disabled (無効)]* 状態になっているとき、CRS サービス全体が停止し、キュー内の既存の要求が自動的にクリアされます。新しい再生成要求は、CRS リクエストキューに転記されません。
- CRS が *[Running (実行中)]* 状態になっているとき、CRS 要求は CRS キューの上部から実行され、新規要求がキューに転記されます。
- CRS が *[Paused (一時停止)]* 状態になっているとき、CRS 要求の実行は一時停止されます。バッチの実行中に CRS が一時停止している場合、CRS は最初に現在のバッチの実行を完了し、一時停止状態に移動します。ユーザーがキューの CRS 要求と同じ CRS 要求を作成する場合、新しい CRS 要求に置換されます。一時停止の状態では、すべての新しい要求は既存の CRS キューに表示されます。

### 要求ポリシーとステータスの表示

次の表では、CRS に設定されたポリシーを示します。

表 12: CRS ポリシーとステータス

フィールド	説明
障害が発生したしきい値パーセンテージ	CRS ごとに障害が発生したデバイスの許容可能な最大割合を識別します。
障害のしきい値を超える時点で一時停止	障害のしきい値が超過したときに、CRS が一時停止に設定されているか特定します。
Pending Requests	実行する保留中の CRS 要求数を特定します。

### 要求統計情報の表示

現在実行している CRS 要求および以前の要求の統計情報が、[Manage Configuration Regeneration Service (設定の再生成サービスの管理)] ページに表示されます。要求の実行が完了した場合のみ、関連する統計情報が [Previous Request (以前の要求)] タブに表示されます。要求が同様の要求に置換されていたり、実行中に削除されている場合、以前の要求とはみなされません。次の表では、統計情報について説明します。

表 13: CRS 統計情報

フィールド	説明
State	設定の再生成サービスの動作状態を特定します。重要な CRS 状態の一部は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>再生成：CRS が現在デバイス設定を再生成していることを示します。</li> <li>一時停止：CRS が一時停止していることを示します。</li> <li>無効：CRS が無効になっていることを示します。</li> </ul>
要求 ID	現在実行中の要求の CRS 要求 ID を特定します。
バッチ ID	CRS 要求に関連付けられている 1 個以上のバッチ ID を特定します。
検索タイプ	CRS 要求をトリガするタイプ動作を特定します。

フィールド	説明
デバイスが正常に再生成されました	現在実行中の要求に、正常に再生成されたデバイス設定数を特定します。  (注) 次のような状況で一部のデバイスが2回再生されているため、再生成されたデバイス設定数は影響を受ける実際のデバイス数よりも多く表示される場合があります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• CRS 要求の実行中に CRS が一時停止され、再開します。</li> <li>• CRS が一時停止し、キュー内の一時停止要求は同じ CRS 要求に置換されます。</li> </ul>
再生成を試行するデバイス	現在実行中の要求に、再生成を試行するデバイス設定数を特定します。
Elapsed Time	現在実行中の要求の経過時間を特定し、これには要求が一時停止した時間は含まれません。
再生成	1秒あたりに再生成されたデバイス設定数を特定します。
再生成に失敗したデバイス	CRS 要求の再生成に失敗したデバイス数を特定します。1000個のデバイス要求の設定再生成が完了するごとに値が更新されます。
失敗したインターフェイスのパーセンテージ	デバイスの CRS 要求の設定再生成が1000個完了した時点で、失敗したデバイスの実行中パーセンテージを特定します。ステータスインジケータは、CRS 要求のデバイスの障害しきい値レベルを示します。



(注) RDU が再起動し CRS が無効になってから有効になると、CRS 統計情報がリセットされます。

### CRS 要求の表示

CRS 要求は、[Manage Configuration Regeneration Service (設定の再生成サービスの管理)] ページで作成された順にキューされます。最大 1000 個の CRS の要求を一度に Admin UI に表示できます。削除する要求を選択し、[Delete (削除)] をクリックすると、CRS 要求の一部またはすべてを削除できます。クイックフィルタおよび詳細フィルタオプションを使用して、キューから特定の要求を検索します。これらのフィルタオプションは、検索タイプとユーザー名に基づき、キュー内で CRS 要求を検索します。



(注) すべての外部ユーザー名は、[External (外部)] として Admin UI に表示され、[null] としてログに表示されます。外部ユーザーは、ユーザー名に基づき外部ユーザーによって投稿された CRS 要求を検索できません。

**CRS 操作に必要な権限**

[Manage Configuration Regeneration (設定の再生成の管理)] ページを表示し Admin UI から CRS 動作を管理するには、適切な権限が付与される必要があります。

タスク	必要な権限
CRS を有効にするには	PRIV_CRS_UPDATE および PRIV_PROP_UPDATE
CRS を無効にするには	PRIV_CRS_DELETE および PRIV_PROP_UPDATE
CRS ステータスおよび統計情報を表示するには	PRIV_CRS_READ、PRIV_PROPERTY_READ、および PRIV_RDU_READ
CRS 設定障害しきい値のパーセンテージと、RDU デフォルト ページから障害しきい値の超過により一時停止を変更するには	PRIV_PROPERTY_READ、PRIV_SYSDEF_READ、PRIV_SYSDEF_UPDATE、PRIV_USER_SECURITY、PRIV_CRS_UPDATE、PRIV_CRS_READ、PRIV_RDU_READ、PRIV_PROPERTY_UPDATE、PRIV_USER_UPDATE

API から CRS 動作を管理するには、適切な権限が付与される必要があります。

タスク	必要な権限
コマンド <i>IPDevice.regenConfigs()</i> を実行するには	PRIV_CRS_CREATE
プロパティ <i>failureThresholdPercentage</i> および <i>pauseOnFailureThreshold</i> を設定するには	PRIV_CRS_UPDATE および PRIV_PROP_UPDATE